

1970年代以降、王子グループはさまざまな分野で海外展開を進めてきました。このコーナーでは、世界各国で事業活動を拡大させてきた各社の挑戦を紹介します。王子グループの海外展開のはじまりである1970年代から80年代に設立された次の5社を特集します。

- 1 1971.5 設立 **Pan Pac** ニュージーランド
- 2 1971.12 設立 **JANT** バブアニューギニア
- 3 1973.8 設立 **セニブラ** ブラジル
- 4 1986.11 設立 **KSP** アメリカ
- 5 1988.8 設立 **HSPP** カナダ



since 1971

Pan Pac Forest Products Ltd. (Pan Pac)

ニュージーランド

王子グループ初の海外製材・パルプ製造会社

1960年代、国内チップの需給はひっ迫しており、海外から原料を輸入するようになった国内大手紙パルプメーカーは、長期的な資源確保の為、海外での造林が必要となっていた。

一方、ニュージーランドでは、1969年、間もなく伐採適齢期を迎える北島中央の国有林の国際入札が行われ、現地の森林企業カーター社と日本の国策パルプ（現・日本製紙）が落札した。1971年、カーター社、国策パルプ及び王子製紙の3社はパルプと製材を生産する大規模なプロジェクトを発足、合併で「カーター王子・国策・パンパシフィック社」（略称、Pan Pac）を設立した。現在は、営林・製材・パルプ事業を手掛ける総合森林企業として王子グループの重要拠点の一つとなっている。



①現在のPan Pac。パルプ工場（向かって左側）、製材工場（右側）、奥の森林はPan Pacの自社林②1971年当時のPan Pac。建設当初の工場の航空写真③バイオマスボイラー。製材の生産工程で出る木屑等で蒸気を発生させ、製材の乾燥工程や自家発電に使用④ログトラックによる丸太の搬入風景⑤積出港であるネイピア港の倉庫。クランプリフトによるパルプの積み出し

会社概要

会社名
Pan Pac Forest Products Ltd.

事業内容
営林ならびにパルプ・木材製品の製造販売

設立年
1971年

所在地
ニュージーランド ネイピア市

沿革

1971年 カーター王子・国策・パンパシフィック社 (Pan Pac) 設立

1973年 ネイピア工場稼働

1991年 カーター・ホルト・ハーヴェイ社 (旧:カーター社) より山林資産と土地利用権が譲渡される

1993年 Pan Pacの合併事業からカーター・ホルト・ハーヴェイ社が離脱し、王子製紙と山陽国策パルプ (1972年に国策パルプが山陽パルプと合併。現、日本製紙) のみの日本資本100%の合併会社となり、同時にPan Pacific Forest Industries (N.Z) Ltd.となる

1999年 山林保有会社を合併し、社名を現在のPan Pac Forest Products Ltd.に変更

2007年 王子製紙が日本製紙のPan Pac株式持ち分を買い取り、Pan Pacを完全グループ会社化する

since 1971

JANT Pty. Ltd. (JANT)

パプアニューギニア

海外チップ生産事業を植林で100%賄うことを目指して

1965年以降、本州製紙は、釧路工場で当時日本最大規模の生産量を誇るL-1マシン（1974年稼働）の設置にあたり、原料の生産地を模索していた。1968年、当時の経団連日豪経済委員長から、第二次世界大戦の激戦地であったパプアニューギニアの開発の提案を受け、1971年、本州製紙、野村証券、第一勧業銀行、三井銀行の4社を株主とするJANT Pty. Ltd.を設立した。1974年、現地チップ工場が竣工し、釧路工場に木材チップ供給が開始された。1977年には造林会社を設立し、ユーカリ植林を本格的に開始。アカシヤへ樹種転換しながら木材チップのための植林事業を進めていった。2004年にその役割を終え事業撤退となったが、日本の紙パルプ産業が将来の原料確保のため行った海外植林事業の先駆けとなった。



①チップ工場。生産したチップはマダン港より日本へ輸出された②植林用のアカシア苗木を育成している様子③タワヤーダー。伐倒した原木を集材した④植林前のアカシア苗木。植林現場に運搬し、植栽準備をした

会社概要

会社名
JANT Pty. Ltd (JANT)

事業内容
木材チップ製造、加工および植林
(王子グループ在籍時)

設立年
1971年

所在地
パプアニューギニア マダン地区

沿革

1968年 ニューギニア開発の提案を受ける

1969年 日本ニューギニア木材株式会社(調査会社)設立

1971年 JANT Pty. Ltd.設立

1974年 チップ工場竣工、チップ生産開始

1975年 試験植林開始

1977年 PNG政府との契約に基づきGogol Reforestation Co. LTD.設立

2004年 事業撤退

since 1973

Celulose Nipo-Brasileira S.A. (セニブラ)

ブラジル

日本とブラジルのナショナル・プロジェクト

1960年代後半、日本の製紙業界は、生産量増加に伴いチップ・パルプの安定供給の道を模索していた。そのような状況の中、ブラジルの資源大手企業リオ・ドセ社（現ヴァーレ社）から「チップの輸出を目的に植林事業を行いたい」という意向が伊藤忠商事を通じて王子に届いたことがきっかけとなり、当時の日本政府は、このブラジルでの植林事業をナショナル・プロジェクトに認定し、1971年、王子製紙を含む大手紙パルプメーカー11社と伊藤忠商事が現在の日伯紙パルプ資源開発(株)（以下、JBP）を設立した。現在、グループの主要拠点としての役割だけでなく、継続したサステナビリティ推進への取り組みが世界的に評価されている。



①現在のセニブラ②現在の苗畑では、年間約2千万本の苗を生産③1995年第2ライン稼働。ナショナルプロジェクトであったため、竣工式には当時の伯大統領や州知事も招待し盛大に開催

会社概要

会社名
Celulose Nipo-Brasileira S.A.
(セニブラ)

事業内容
植林事業およびパルプの製造販売

設立年
1973年

所在地
ブラジル ミナスジェライス州

沿革

1971年 日伯紙パルプ資源開発(株)(JBP)設立

1973年 セニブラ設立

1977年 パルプ工場第1ライン稼働(年産255千トン)

1995年 パルプ工場第2ライン稼働(年産700千トン)

2005年 森林管理協議会(FSC)、ブラジル森林認証プログラム(CERFLOR)の認証取得

2009年 複数回の増産工事を経て、年産1,200千トンを達成

2021年 セニブラ完全グループ会社化

2022年 サステナビリティ評価機関エコパディアスのゴールドメダル獲得

since 1986

Kanzaki Specialty Papers Inc. (KSP) アメリカ

海外市場対応型の初プロジェクト

神崎製紙は、1985年までの円安を追い風に、アメリカ向けに感熱紙等の輸出を拡大していたが、プラザ合意以降の円高ドル安の進行により、輸出による収益が低下。1986年、現地生産による海外市場でのシェア確保を狙い、米国マサチューセッツ州のラドロー社のウェア工場（感熱紙・粘着紙）を買収し、Kanzaki Specialty Papers Inc.(KSP)を設立した。

1993年の王子製紙との合併後は、王子と神崎の技術力を統合し、米国市場においてもトップレベルの感熱技術を有するに至った。現在も、市場の需要構造の変化に対応し、常に高付加価値品主体に転換を図り、北米における感熱紙の底堅い需要を取り込んでいる。



①#20CM(1989年稼働)。#20CMと#11CM(1972年稼働)の感熱紙コーター2台体制②事務所外観。苫小牧市とほぼ同緯度に位置し、冬は非常に寒く、降雪も多い地域。自然豊かで鹿やクマ、スカンクなどの野生動物も見られる③Ludlow社前身McLaurin & Jones社時代の外観(1916年)④Ludlow社時代の全景(1985年)⑤KSP社全景(2005年)

会社概要

沿革

会社名 Kanzaki Specialty Papers Inc.(KSP)	1986年	神崎製紙、ウェア工場を買収、KSPを設立
事業内容 感熱紙等の製造販売	1993年	神崎製紙、王子製紙が合併
設立年 1986年	2000年	粘着事業を売却
所在地 アメリカ マサチューセッツ州	2006年	新倉庫建設
	2010年	感熱コーター近代化工事完了
	2015年	排水設備更新

since 1988

Howe Sound Pulp and Paper Limited (HSPP) カナダ

海外における本格的な新聞用紙の開発・生産、供給へ

1985年以降、円高により安価な輸入紙が台頭し、国内生産拠点のコスト競争力低下が大きな課題となる中、王子製紙は、新聞用紙をチップの供給元である北米で直接生産し、日本へ輸出・供給することを検討した。

1988年4月、カナダの有力な製材・チップ、パルプメーカーで、ブリティッシュコロンビア州でクラフトパルプを生産していたキャンフォー社との折半出資でHowe Sound Pulp and Paper Limited (HSPP) を設立し、文化の壁を越えて日本の新聞用紙の厳しい品質・サービスの要求をクリアし、安定供給を確立した。

2000年以降、カナダで森林伐採に制約が出始めたこと、日本で新聞用紙への古紙多配合要求が高まったこと等が重なり、2010年王子グループから離れることとなった。



①工場全景。山と海に囲まれた風光明媚な地域であった

会社概要

沿革

会社名 Howe Sound Pulp and Paper Limited (HSPP)	1908年	工場操業開始(当時、British Canadian Wood Pulp and Paper Companyが工場を立ち上げ)
事業内容 新聞用紙およびパルプの生産販売 (王子グループ在籍時)	1951年	キャンフォーが買収
設立年 1988年	1987年	Howe Sound Pulp and Paper Limited (HSPP) を設立、近代化工事に着手
所在地 カナダ ブリティッシュコロンビア州	1990年	新設備による市販パルプの生産開始
	1991年	新聞用紙設備完成、生産開始
	2001年	Howe Sound Pulp and Paper Limited Partnership (HSLP) に社名を変更
	2010年	HSPP売却